

# 調剤部通信 No.8

## 入間市藤沢地区医療介護連携会議

～身寄りのない独居の方への対応～

先日、入間市の藤沢地域包括支援センター主催の医療介護連携会議に参加してきました。

現在、一人暮らしをしている高齢者の増加は男女ともに顕著であり、高齢者人口に占める独居の割合は、男性で約10人に1人、女性では約5人に1人となっていて、男性と女性でこのように性差が出るのは、女性の方が男性に比べ寿命が長い為だと思われれます。

このように高齢者の独居の割合が増加してきた為、最近では『孤独死』が社会的な問題になってきています。この『孤独死』とは明確な定義はないのですが、一般的には一人暮らしをしていて、誰にも看取られず亡くなった場合等を指します。

この『孤独死』の問題点としては、社会的なコストがかかる

ということ、具体的には、遺体を掘りこさせる取組み等が意見や遺品の処理等の後始末の費用としてあがりました。やマンション等の資産価値への影響、近所同士の不信感、地域の不和（何故異変に気付かなかつたのか？）等が挙げられますが、なによりも『孤独死』にまで至るような孤立した生活が人間の尊厳にダメージを与えているという意味では、大きな問題であると思われれます。

この問題を解決するために、現在各自自治体では様々な取り組みが行われている状態です。今回の連携会議のグループディスカッションにおいても、どのような取り組みをしたら良いか、各事業所から色々な意見が挙げられました。具体的には、ICTタグでの位置情報確認、情報送信機能付き血圧計の利用や人感センサー利用など、ICTを活用したもの。新聞やヤクルトの配達員による声掛けなど、民間企業を活用したもの。近隣住民の互助機能の組織化や地域サロンの開設などコミュニティー意識

このような様々な意見があがらるる中で、感じた事は、薬局は身寄りのない独居の方へのアプローチとして何が出来るのか？という事です。現在、介護保険を利用されている方には、居宅療養管理指導で訪問して相談を行うことが可能で、そのような薬局は増えてきてはいますが、介護保険を利用していない身寄りのない方へのアプローチは難しい問題だと思われれます。こうした身寄りのない方でも気軽に相談のれるような、地域コミュニティーの創設にかかわる薬局づくりが今後、地域のニーズに答えられる薬局ではないかと、今回連携会議に参加して感じました。

エース薬局上藤沢店  
吉川 保雄  
飲食店紹介

先日、調剤部のメンバーと共に入間市にある大盛りで有名な定食屋『古都』へ行きました。たは増えてきてはいますが、介護保険を利用していない身寄りのない方へのアプローチは難しい問題は経験してほしいお店です。



入間市健康福祉センターにて



エビフライ定食 990円（普通サイズ）